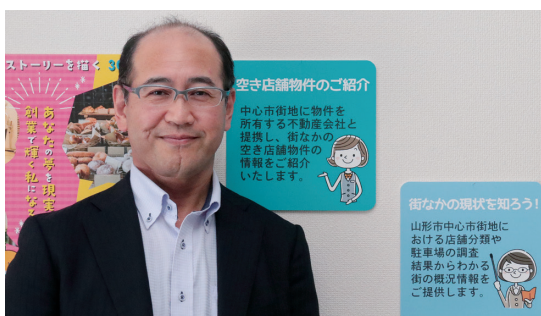


## 人が集まる笑顔の街に

やまがた街なか出店サポートセンター長  
佐藤 克也氏



山形市を訪れた方たちの多くが、決まってこう口にします。「自然に囲まれて、食べ物はおいしく、街の人は優しく親切で、人間らしい暮らしができる街だ。住んでみたい」と。そんな山形の街の良さを背景に、アズ七日町の向かいに新たに設置したのが「やまがた街なか出店サポートセンター」です。

「店を出したいけれど何から始めよう?」、「山形の現状を知りたい、行政の融資や支援制度を知りたい、空き物件の情報を集めたい、経営に関する相談をしたい」といった問いに、ワンストップでアドバイスし、一緒に夢の実現を考える「場」です。

山形の商店街事業、街づくりにかかわって27年になります。平成3年に七日町商店街振興組合に就職し、ほっとなる広場の整備から各種イベント、街なか再開発事業等さまざまな事業に携わりました。当時は市立病院済生館の新築工事が急ピッチで進められ、本町から七日町にか

けての街路整備事業も既に完成し明るい街並みが形成され、活気にあふれていました。また、組合が先駆的に取り組んだBDF事業(事業所から出る廃油を回収しディーゼル燃料に精製、市長公用車等に再利用)は、環境を切り口にした活性化策を実施した商店街として全国から視察が相次ぎました。

商店街の枠を超えて本格的に街づくりを学ぶため45歳のときに組合事務局長の職を辞し、街づくり先進都市の大分市、金沢市、札幌市等を訪れて勉強し、(株)山形街づくりサポートセンターに入社。山形商工会議所内に設置された山形市中心市街地活性化プロジェクト本部で、山形市のグランドデザイン策定の基礎資料となる調査を行いました。

「やまがた街なか出店サポートセンター」は、こうした取り組みのなかで、来街者に便利で有益なアプリサイトを構築し店舗・イベント・観光施設・駐車場等を集約・更新し配信する「街なか情報発信事業」とともに具体化したものです。調査に基づいた店舗の分類・駐車場といった街なかの状況と、中心市街地に物件を有する不動産会社と提携し、街なかの空き店舗物件の情報を提供します。山形市等が交付する出店支援の補助金についての説明や山形商工会議所や金融機関と連携した創業支援を行います。

七日町商店街振興組合に入る前、大学で学んだ材料工学を活かそうと大手住宅関連メーカーに入社し商品開発設計を担当しました。そこでは「課題・対策・試作・商品検査・市場調査・製品化」というアプローチを繰り返してきました。組合に入った時に当時の理事長に「能力の差は小なり、使命感の差は大なり」という言葉と、組合を退職するとき、「勉強して3年経ったら戻って来い」という言葉を頂きました。今もその言葉を忘れずに、街なかの動きを敏感に捉えて、人が集まる笑顔になれる街の実現に向けて、街というステージで活躍する人、したい人をサポートしていきたいと考えています。

(P12に関連記事掲載)



### 今月の表紙

#### 「蔵王・ドッコ沼」

ふるさと画家・上野啓太氏作。「わが町」をテーマに、イラストでまちおこし運動を行っている「やまがたマーチング委員会」(事務局・(株)大風印刷)提供。